

## 目 次

序 章	フィリピン貧困の現状と問題	1
第1章	貧困の構造的把握——グローバル接合レジーム	12
1	はじめに	12
2	福祉レジーム論の視点	13
3	接合理論	24
第2章	民主化後の貧困政策——体系化と制度化	32
1	はじめに	32
2	政治的民主化と社会変革——コラソン・アキノ政権期	33
3	貧困政策の制度化——ラモス政権期	41
第3章	貧困政策の展開——自由化の中での変容	56
1	はじめに	56
2	伝統手法への回帰——エストラーダ政権期	57
3	経済政策の優先とコミュニティ指向——アロヨ政権期	67
4	国際政策への合流と新機軸——ベニグノ・アキノ3世政権期	75
第4章	国家と貧困政策——民主化とガヴァナンス	84
1	はじめに	84
2	貧困政策の特徴	85
3	政策の政治力学	93
4	権力構造と貧困政策	105

- 5 国家的課題としての貧困政策 114
- 6 むすび 121

**第5章 貧困と市民社会**——参加と政治文化…………… 123

- 1 はじめに 123
- 2 市民社会組織の隆盛 124
- 3 貧困問題と市民社会組織 127
- 4 市民社会組織の変容と体制内化 134
- 5 市民社会組織とフィリピン政治 143
- 6 国家と市民社会組織 148
- 7 むすび 150

**第6章 貧困と市場**——グローバル化と国内条件…………… 152

- 1 はじめに 152
- 2 労働構造 155
- 3 労働権保護と放縦 161
- 4 インフォーマル経済 165
- 5 グローバル労働市場 171
- 6 農業と市場 174
- 7 むすび 178

**第7章 家族・親族の生存戦略**——貧困者の主体性…………… 180

- 1 はじめに 180
- 2 家族・親族のリスク分散機能 182
- 3 分かち合い文化と相互扶助 188
- 4 フィリピンの価値観 196
- 5 生存戦略と社会運動・社会政策 200
- 6 むすび 203

終 章 結 論..... 205

- あとがき 211
- 参考文献 217
- 注 236
- 索 引 243